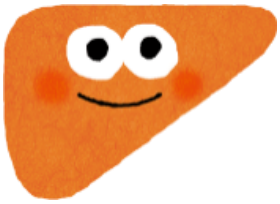
2025年３月発行
印　刷　東海大学医学部付属病院



肝ぞう通信

2024年度　第 11 号　《 化学療法室について 》

お知らせ

肝疾患医療センターは、
肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。
当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院１階
　　総合相談室

受付時間：
平　日９：00～15：00
土曜日９：00～12：00
（第２・４土曜日除く）

豆知識

がん薬物療法は自己負担額が高額になることがあります。外来フロア１階の総合相談室・がん相談支援センターでは、高額療養費制度を含む社会資源の紹介や就労支援なども行っています。

次回号

テーマ：（未定）

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川　建弘

肝細胞がんと薬物療法

近年、がん薬物療法はより副作用の少ない新薬の開発や支持療法の進歩などにより通院での治療が主流となってきています。外来化学療法室では、このように通院でがん薬物療法を行う患者さんの点滴治療を行っています。

外来化学療法室は、外来フロアの２階 22 番にあります。医師の診察を終え、点滴を行うことが決定した患者さんが来室・受付をされます。座席は全部で 45 席、全席リクライニングチェアとなっており、イヤホンをご持参頂ければ治療中は無料でテレビが視聴できます。

外来化学療法室には、がん薬物療法に習熟した専任の医師や看護師、薬剤師などが在籍しており、日々安全・安楽・確実ながん薬物療法の投与管理に努めています。

今回は、肝細胞がんに対する薬物療法について取り上げてみたいと思います。

肝細胞がんの治療には、肝切除（手術）、肝移植、ラジオ波焼灼療法（RFA）、肝動脈化学塞栓療法（TACE）など様々な方法がありますが、薬物療法も行われます。現在、日本における肝細胞がんに対する薬物療法では、アテゾリズマブ（テセントリク®）、ベバシズマブ（アバスチン®）、デュルバルマブ（イミフィンジ®）、トレメリムマブ（イジュド®）、ソラフェニブ（ネクサバール®）、レンバチニブ（レンビマ®）、ラムシルマブ（サイラムザ®）、レゴラフェニブ（スチバーガ®）、カボザンチニブ（カボメティクス®）などの薬剤が使用されています。